

授業力ブラッシュアップ研修会Ⅰ・Ⅱ

今年度の授業力ブラッシュアップ研修会は、学習指導要領の改訂を踏まえ、授業改善の視点として示された「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業はどうあればよいかをテーマに提案授業・講義・演習を実施しました。今回は、10月に実施した小学校国語と11月に実施した中学校社会の研修会の様子を紹介いたします。

小学校 国語

目的に応じて主体的に考え表現することができる子供を目指して ～主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～

(1)提案授業

「じどう車くらべ」第1学年

授業者：奥州市立水沢南小学校 教諭 倉澤 芳理

助言者：県南教育事務所 指導主事 松本 孝嗣

★自分の課題の解決へ向けての目的をもった協働的な学びの場の設定の工夫

学び合いの目的や必要感を子供自身に明確につかませることで学習活動としての学び合いが意味をもつと考えた。そこで、図鑑から見付けた「はしご車」の「つくり」が「しごと」にぴったり合っているかどうか確かめるという目的を明確にしてペアで話し合いを行わせた。その後、全体で見付けた「つくり」が「しごと」に合っているかどうか確かめる場を位置付け、定着を図りたいと考えた。

★2次で身に付けた力を3次で活用することができるような単元構想

2次での学びを生かして3次では、自分で選んだ乗り物で「乗り物図鑑カード」を作ることができるように、段階を踏みながら中心学習材の読みから図鑑への読みへとつなげていった。本時では、「はしご車」の「しごと」にぴったり合う「つくり」を図鑑から読み、「乗り物図鑑カード」をつくる学習活動を行うことで、2次において身に付けた力を3次で活用することができるようにした。



(2)講義 講師：県南教育事務所 指導主事 松本 孝嗣

1 「主体的・対話的で深い学び」の実現のために

「主体的・対話的で深い学び」の実現とは、特定の指導方法や指導の型のことで、これまでの指導を否定することでもない。現在、既に行われている学習活動の取組を生かしながら、「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善を進めることである。

2 言語活動の質の向上のために

国語科においては、言語活動を通して指導事項を指導することが大原則。子供の実態・教材の特性をもとに、指導事項の重点化を図りながら、子供にとっての課題解決の過程となるような言語活動の設定が今後より一層求められる。



中学校 社会

中学校社会科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 ～社会的な見方・考え方を働かせる言語活動を重視した授業の在り方

(1)提案授業

「地方自治と住民の参加」第3学年

授業者：一関市立東山中学校 小坂 晃美

助言者：県南教育事務所 指導主事 及川 仁

★単元を貫く学習課題の解決に向けた主体的な学び

地方自治への興味・関心を喚起するとともに、見通しをもって主体的に学ばせることをねらい、単元をデザインした。本時は『どうすれば「住み続けたい」「住んでよかった」と思えるまちにできるか』という課題の解決に向け、市政への提言をグループごとに構想させることで、一人一人の考えを広げ深めさせたいと考えた。



★「見方・考え方」を働かせた説明、議論

個人で考えた提言の視点が同じ生徒同士で、福祉、産業、観光などの4人グループを編成し、議論させた。意見をただ単にまとめるだけでなく、まとめた提言が妥当かどうか、「効率と公正」「民主主義」「個人の尊重」といった既習の概念⇨「現代社会の見方・考え方」を働かせて考えるよう配慮した。グループの発表だけでなく、実際に市政に関わっているゲストティーチャーからの講評、助言をいただくことで、さまざまな「見方や考え方」があることに気付かせるようにした。

(2)講義 講師：県南教育事務所 指導主事 及川 仁

1 授業改善の視点について

「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善を進めてほしい。特に単元というまとまりの中で、どのように「見方・考え方」を働かせ、「深い学び」を実現するのが重要である。



2 評価について

改訂では質の高い理解を図るための学習過程の改善が求められた。指導に関する改善が求められれば、当然評価の改善も必要となってくる（「指導と評価の一体化」）。機械的な暗記ではなく、質の高い理解をしているかどうかをどのように見取ればよいか。今回プロジェクトチームが提案した「パフォーマンス評価」など、多様な方法で質を見取る工夫が求められる。